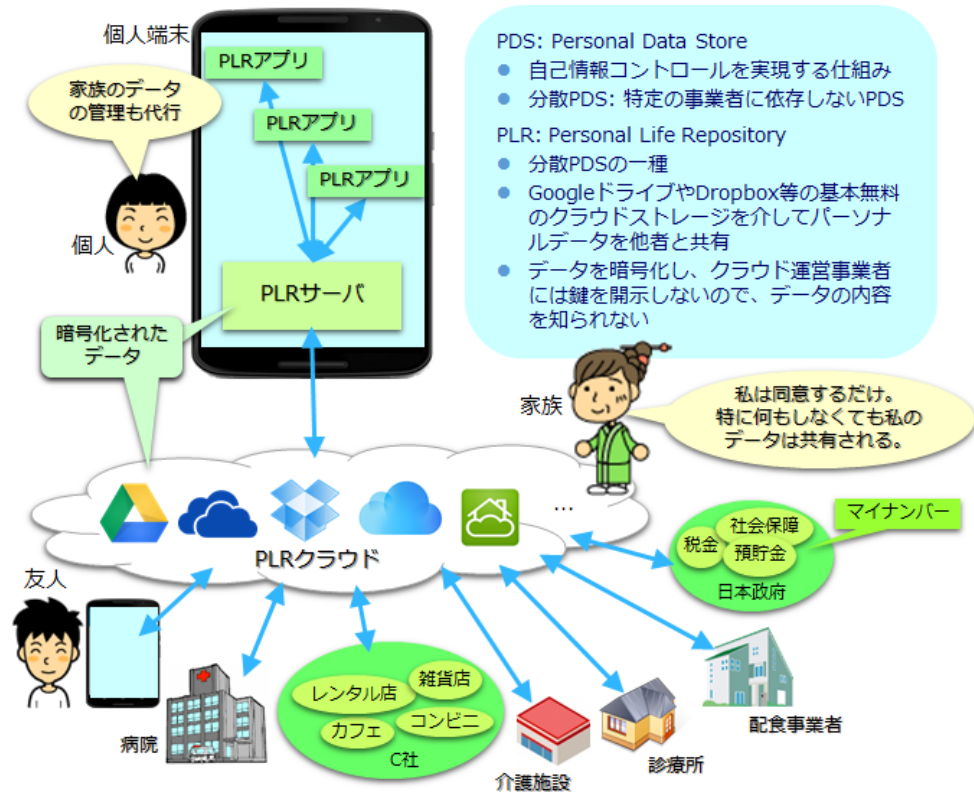


教員名	橋田 浩一 教授	研究場所	本郷	研究分野	パーソナルデータの活用
-----	----------	------	----	------	-------------

本研究室では、パーソナルデータを本人が管理し活用することを支援する技術(PLR)、それに関連する自然言語処理やオントロジー工学、およびそれらに基づくサービスについて研究開発し、これらを実社会に適用することにより、エビデンスに基づく自律分散協調的な社会の構築を支援する。そのための学術研究はもちろん、COCN（産業競争力懇談会）等を通じた産学連携や国際標準化にも取り組んでいる。

URL: <http://www.sict.i.u-tokyo.ac.jp/members/hasida/>

PLR (個人生活録)



個人が特定の事業者依存せずに本人のデータを蓄積・管理し、データの範囲と相手を自由に指定してデータを共有し活用することができれば、事業者は大量のパーソナルデータを保管するコストやデータ漏洩のリスクを免れ、個人は自分の利益を最大化するように自分のデータを活用できるので、B2C サービス産業の市場規模の拡大とイノベーションが促進されるだろう。PLR (personal life repository)は、個人によるそのようなデータの管理・活用を支援するミドルウェアである。たとえば2025年に完了する予定の医療制度改革により、医療機関や介護事業者は患者や被介護者のデータを共有せねばならなくなるが、PLR はそれを実現するほぼ唯一の方法と考えられる。本研究室では、PLR の機能拡張とそのさまざまなサービスへの応用、ならびに PLR に対応する社会制度等について研究している。

知的コンテンツ

サービスに関連するデータの仕様を個人が PLR で標準化することにより、さまざまなサービスを上図のように相互連携させたり多数の個人からデータを集めて分析したりすることが可能になる。それには、多様なサービス等に関する標準オントロジーを開発し社会的に共有しながら修正・拡張し続ける必要がある。また、各個人が他者にデータを開示しても良いと思えるための条件、および事業者等が個人からデータを開示してもらった際に希望する条件を、その標準オントロジーに準拠して表現し、自動的に照合することによって、個人データの適正な共有を促したい。それらに加えて、PLR に基づく分散 SNS、そのコンテンツを右図のように構造化して知識の共創を活性化するためのオントロジー、それらのオントロジーと連携する自然言語処理技術等に関して研究を進めている。

